

県議会報告

第101代副議長に就任

真摯な政策通 議会運営に最善尽くす

つくばエクスプレスの開業に伴って、本県の新しい玄関口として活況を呈している守谷市の、唯一の小川一成県議会議員（四期目）は、県議会ナンバー2である副議長としての公務に、そして議員活動にと忙しい日々を送っています。昨年十二月十九日の第四回定例会最終日の議会人事で、

第百一代副議長に選出されて以来、桜井富夫新議長がキャッチフレーズに掲げた「県民の夢と希望を育む県議会」の具現化に、いわゆる女房役として努めています。今回の『県議会報告』では、この一年の小川議員の主な活躍ぶりを振り返ってみました。



平成20年第1回定例会県議会で、桜井議長に代わって本会議場の議長席に座り、一般質問を仕切った小川副議長。手前は答弁する橋本知事

これまで農林水産委員会や土木委員会の委員長などを歴任してきた小川議員はこの一年、議会運営委員会の委員長として大いに手腕ぶりを発揮しました。

これまで農林水産委員会や土木委員会の委員長などを歴任してきた小川議員には識見をはじめ、判断力や調整力などが求められます。「副議長の登竜門」と言われるのはそのためです。

中でも、小川委員長は昨年十二月の第四回定例会で、懸案だった議員に

月の第四回定例会に改めたのは、予算の議決から執行までを議会として責任をもってチェックしていこうという理由からです。こうした改革にも、小川委員長がかかわったことは言うまでもありません。そして、今度は「本県議会の顔」の一人、副議長とあって、まさに順風満帆

対する費用弁償の大幅な減額を伴う見直しに尽力その活動は特筆に値するでしょう。また、正副議長改選をはじめとする議会人事は従来、新年度予算案などを審議する三月の第一回定例会最終日に行われていましたが、それを十二

県民の夢と希望を育む県議会

「い」と、手短かにきっぱりと語り、抱負を熱く語った桜井議長とは対照的でした。

終始、議長を立てるなど控えめでしたが、記者から「議会は執行部の追認機関との批判がある」と指摘されると、間髪を入れず、「常任委員会や党の政調会などで事前に執行部と相当の勉強をし、吟味をしている。誤解ないようにお願いしたい」とピシヤリ。

小川副議長と云えば、罰則強化を狙った県屋外広告物条例の改正案を、

新正副議長は翌十二月二十日午前、そろって初登庁し、新体制の第一歩を踏み出しました。当日は、



初登庁した小川副議長

このように、小川議員は年々、本県政界で存在感を増しており、守谷市民にとっても頼もしい存在と言えるでしょう。しかし、議員は、市民の皆様への熱い支持があつて初めて、後顧の憂いなく働くことができるのです。この機会に、改めてご支持とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

従来からの取り組みをおろそかにするような小川副議長ではありません。初登庁から二日後には会長を務める守谷市国際交流協会の会員を含む一行十四人とともに、世界最貧国の一つ、ラオスへのスタディーツアーに参加し、青年海外協力隊の最前線を視察してきました。



女性職員から花束を贈られ、笑みを浮かべる新正副議長



いばらき霞ヶ浦賞の受賞者と記念写真に納まる小川県議や橋本知事

費用弁償の見直し

議員の費用弁償は「県議会の議員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例」に基づき、会期中の本会議、委員会での議案調査や陳情、請願など幅広い議会活動に対して支給されているものであり、これらの職務を行うために要する費用を包括的に勘案して定められています。

改正に尽力

議会の決意示す

費用弁償は、北海道に次いで二番目に高額だったことから、昨年十二月の第四回定例会で抜本的な改正が行われました。最終日の十九日、小川議員が本会議場で見直し案を提案し、全

会一致で可決されました。県議会がこうした見直しに踏み切ったのは、本県が財政危機に直面している中で、財政再建が喫緊の最重要課題であり、議会としても、財政再建等調査特別委員会を設置して審議を重ねている事情がありました。

小川議員は、守谷市国際交流協会の会員と毎年のようにラオスを訪れ、国際協力機構が派遣している青年海外協力隊員の

ラオスと交流



ルアン・パバンの子ども文化センターで開かれた交流会



ルアン・パバンの街を朱色に染める托鉢。一行も沿道に座り、僧侶に供物を捧げました

昨年暮れに訪問したのは、旧市街地が一九九五年に世界遺産(文化遺産)に登録されたルアン・パ

バンで、日本の援助でできた病院に働く青年海外協力隊員の視察をする。今回は、今年九月二



その結果、霞ヶ浦での砂利の採取許可限度量は平成十年度の年間五十三万立方メートルから、本年度には同二十七万立方メートルとほぼ半減しています。新年度以降については現在、国が計画を

十八日に予定される同協会の創立二十周年記念式典にラオスの高校生ら十人(随行者も含む)を招へいするための準備も兼ねていました。



神の化身・牛が街中を歩くのは普通の暮ら(インド・ジャイプール市で)

「何事にも真摯で前向きと評される小川副議長にとつては、「もう一度訪れたい国」がまた一つ増えたのと同じく、水質浄化への取り組みの重要性を改めて確認した訪印となったよう

世界湖沼会議

小川議員は昨年十月二十六日から十一月二日まで、インドのジャイプール市で開催された第十二回世界湖沼会議に出席し、世界五十九カ国から参加した約八百人の研究者や行政担当者、NGO、市民らと交流を深めたり、意見交換などをしてきました。

世界湖沼会議は、一九八四年(昭和五十九年)に滋賀県の提唱で開催されて以来、世界各地でほぼ二年に一回開かれ、研究者や行政、NGO、市民らが一堂に会し、世界の湖沼やその流域で起こっている様々な環境問題や解決に向けた取り組みについての議論や意見交換の場となっています。

「いばらき霞ヶ浦賞(副賞三十万円)を創設。以来、湖沼会議の開会式当日、橋本昌知事らが出席して授与式を行っており、今回は五カ国五組の研究

参加の小川議員、県民ら二十六人が参加しました。以前から湖沼会議に参加意向を示していたのは、守谷市を含む県南地域の水道が霞ヶ浦を水源として

策定中ですが、県によると、小川議員の後押しもあって、許可限度量はさらに削減される見通しとなっています。

「でいきたい」と意欲を見せています。加えて、今回のインド訪問は、世界中をヒッチハイクして旅をした学生時代以来、実に四十年ぶり二度目とあって、すっかり一変したところとにも、時の流れが止まったような全く変わらないところが共存する「魅惑の国」を目の当たりにしました。

インド会議に初参加

念願 学生時代以来40年ぶり

者には霞ヶ浦賞を贈りました。本県からは橋本知事のほか、山口武平県自然環境保全審議会会長や飯野重男議長(当時)、自費で初

この間、予算特別委員会や所管委員会で、霞ヶ浦の水質浄化対策を精力的に取り上げてきました。特に霞ヶ浦からの砂利採取の規制強化を一貫して訴えてきたことで知られます。

小川副議長は、「今後とも、意見交換会を継続していく方針です。同時に、四月からは県民に森林湖沼環境税をお願いするわけですから、私どもとしてもより一層、霞ヶ浦の水質浄化に取り組ん

前者については「世界をリードするIT国家の将来を担う子ども達が、二ヶタの掛け算を暗算してしまうのは驚きでした。さすがゼロを発見した国と改めて認識しました。後者については「悠久の世界というか、過去の現在、未来が渾然一体となったところや時代を超越したようなところ、また、何でも飲み込んでしまうようなところが魅力であり、それに引かれま